



家庭学習のすすめ

大阪市立育和小学校 学力向上部会

令和2（2020）年5月1日発行 No.2



家庭学習の中の1つである、自主学習ってどんなもの？

今回のテーマは「自主学習」です。自主学習とは、「子どもが自ら学習する内容を選んで、自主的に取り組む学習」です。育和小学校では、これまでも自主学習をすすめてきており、今年度も学年に応じて取り組んでいきます。

自主学習の6つの特徴をご紹介します

①一人ひとりが自分に合った学習内容を選べるため、学習に対して主体的になれる

宿題は受け身な学習態度になりがちですが、自主学習では、自分で学習内容を選ぶことができるため、学習に対して主体的になれる、やる気も生まれます。

②「振り返り」をしながら進めることで、学び方を学ぶことができる

自分にとって、うまくいく学び方を身につけている子は、他の学習内容に出会った時でも、その学び方を上手に生かすことができます。こうした学び方を身につけることは、生涯にわたる豊かな学びを保証する力になります。

③1冊のノートに努力が積み重ねられ「見える化」されるため自己肯定感が高まる

自主学習では、学習したノートがその子の努力の記録となり、それが積み重なっていくことで、自分の継続力に自信が生まれ、次なる学習への意欲も高まっていきます。

④家庭で自分から勉強する習慣を身に付けることができる

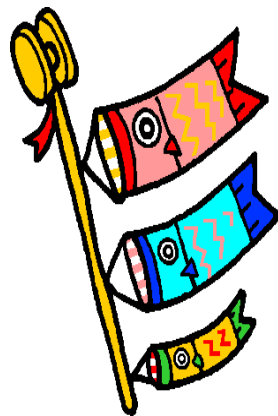
自ら学習する内容や目標を決めて取り組むことで、継続する力や進んで学習する習慣が確立されていきます。

⑤学ぶことが楽しくなる

新しいことを知ったり、できるようになったり、知らない世界のことを調べたり、実験してみたりといった学びは、本来とても楽しいものです。自主学習を通して、そのような学びの機会を得られます。

⑥資料活用の仕方や表現方法を工夫することができる

書いたノートを、他者（先生や保護者や友だち）に見せることを前提にすることで、見やすさ、わかりやすさを心がけたり、資料の活用の仕方や表現方法を工夫したりする練習になります。





これからの子どもたちに求められるのは…

今の子どもたちの65%が、現在にはない職業に就くと言われています。さらに、AIの発達により、10～20年後には、現在ある仕事の47%がロボットにうばわれてしまうと予想されています。日本では、現在の労働人口の49%が付いている職業にあたります。そこで、以下のような人材が求められています。

①創造的（クリエイティブ）な思考ができる人。

将来起きるであろう新しい問題には、今までになかったような新しい解決方法が求められます。新たな困難に立ち向かい、それを解決していくためには、創造的かつ柔軟な発想や探究心が必要です。

②目的ややる気を自己管理できる自立した人

何ために働き、何のために生活するのかを考え、そのために必要な日々の取り組みをしっかりと自己管理できる人が望まれるはずです。

③共同社会で共に助け合って協働できる人

自分の身につけた力を身近な人へと還元できるように、小さな貢献を積み重ねていけるように、優しさをもって人とかわかっていける力が求められます。

※10年後、20年後には、発想力や創造力を必要とする職業が多くなると予想されます。このような力をつけるための土台となる要素が自主学習にはたくさんあります。

育和小学校が、自主学習で目指す子ども像

①自ら学ぼうとする子

②深く考え、工夫できる子

③学習の計画が作れる子

④家庭学習を続けられる子

⑤友だちと一緒に学ぼうとする子

⑥自分が好きで、あきらめない子

⑦学習を楽しんでいる子



次号では、児童向けに、自主学習や自主学習ノートづくりのルールと、具体的にどのような内容に取り組みれば良いかをまとめてお知らせしたいと思います。

